

## 安全ながん薬物療法のために

### 薬剤部

薬品安全対策室 中村敏己(なかむら としみ) 室長(写真左)

注射薬補給室 西迫寛隆(にしさこ ひろたか)(写真右)

がん薬物療法は、医療の進歩と共に急速に高度で複雑化しています。特に最近では、次々に新しい作用機序の抗がん剤が登場し、新規レジメン(抗がん剤投与計画)が開発されています。そのなかで、安全で質の高い抗がん剤治療を安心して受けていただくために、がん領域での最新の知識を持った薬剤師(がん専門薬剤師)が必要とされています。

本院は平成22年4月1日からがん診療連携拠点病院の指定を受け徳島県のがん診療の拠点として、毎日、多くの患者さんが来院されています。がん治療は医師、看護師、薬剤師、心理士など、さまざまな医療スタッフが協力して行う集学的医療です。そのなかで、薬剤師はがん薬物療法におけるレジメン(投与計画)管理、無菌調製業務、抗がん剤等の薬剤情報提供を担っています。

がん専門薬剤師の中村敏己室長はこう語ります。

「抗がん剤の調製業務は、処方の確認はもちろん投薬歴、患者さんの症状に合わせてのチェックというように、二重、三重に何度もチェックを重ねます。」

「抗がん剤だけでも100種を数えますから、間違いなく安全に届けるためには何よりも念には念を入れることが大切です。」

もう一人のがん専門薬剤師である西迫薬剤師はがん薬物療法の専門知識を生かし、抗がん剤、支持療法剤(制吐剤、白血球を増加させるお薬など)をはじめとする注射薬を払い出す注射薬担当の立場からチェックを行って

ています。他にも、調剤担当、病棟担当、医薬品情報担当など多くの薬剤師がそれぞれの業務をとおして、患者の皆様がより効果的で安全な治療を受けられるよう、安全な医薬品提供と最新の薬学的専門情報をわかりやすく配信することに務めています。

